

会員と千葉県連盟をつなぐ

ちばニュース

2017年11月号



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpin Federation

2017年11月 1日発行 通巻295号

冬山は、万全の計画と

十分な装備で楽しもう

11月号目次

・ 目次	2
・ 10月理事会報告	3
・ ハイキング・リレーエッセイ（岳人あびこ・深草）	6
・ 第34回ロングハイク案内	8
・ 事故防止経験交流集会案内	9
・ ワンコイン講習会案内	10
・ キリマンジャロ報告（羽鳥健一朗）	11
・ " （桐生千恵子）	14
・ " （安彦秀夫）	16
・ リニア問題署名のお願い	24
・ 県連便り	25
・ 11月・12月予定表	26

写真説明

全員踏破、ムウェカゲートでのワンショットです
憧れのキリマンジャロに、足跡を残した満足感を感じる笑顔です。
お疲れ様でした。

今月号は、キリマンジャロの報告投稿が多くありました。
千葉県連海外委員会行事としては初めての高峰登山でした。
県連の取り組みとしては反省点もありますが、3名登頂出来たことは大きな成果だと思います。

今回の経験を活かして、海外で楽しい登山・トレッキング等を安全に楽しんでいただきたいと思います。

千葉県連 10月理事会報告（議事録）

記録者 丸山 宏（松戸山の会）

実施日：2017年10月19日（木）19：00～20：45

場 所：船橋市西部公民館 第3集会室

出席会：こまくさHC、山の会「岳樺クラブ」、シリウス☆山の会、かがりび山の会
船橋勤労者山の会、ちば山の会、ふわくHC、東葛山の会、市川山の会
茂原道標山の会、松戸山の会、まつど山翠会、千葉民医連山を歩こう会
まつど遠足クラブ1年さくら組（14会／19会）

顧問、会長、副理事長、会計、ハイキング委員長、教遭委員長、
自然保護委員長

配布資料：・2017事故防止・経験交流集会の案内 ・2017年度事故報告
・2017年ふれあいハイク下見 神奈川県三浦半島 大楠山

◆ 各委員会報告

1、教遭委員会

- ① 事故報告・8月 ちば山の会 23才女性 道志山塊牧馬沢 滑落
・9月 千葉こまくさ 62才女性 岩殿山稚児落とし 転倒
・10月 あじさい山の会 69才女性 尾瀬燧裏林道 転倒

※ちば山の会の事故は4月入会の初心者で沢経験なし。

なぜ参加許可したのかが問題。現地調査まとめ中。（会よりの報告）

- ② 2017年事故防止・経験交流集会（別紙案内、申し込み表有り）
 - ・11月11日（土）～12日（日） 大山青少年研修センターで実施
 - ・11日 ・今年度の事故に関する報告
 - ・全国事故事例（2例）のディスカッション
 - ・12日 ・救急法及び搬送法講習 ・渡渉の模擬実習

申込み 10月28日（土）まで（会でまとめて遭対委員会に）

2、ハイキング委員会

- ① 房総ロングハイキング実施
 - ・2018年1月27日（土）～28日（日） ・七里川温泉泊
 - ・コース 石尊山～麻綿原～烏帽子山～坂本駐車場

3、自然保護委員会

- ① 関東ブロック自然保護集会参加報告（10月14日～15日）
奥多摩 天祖山 石灰岩採掘で山が削られている。翌日採掘現場見学。
- ② 全国自然保護担当者会議
 - ・日程：10月28日（土）～29日（日）
 - ・場所：日光温泉
 - ・リニア新幹線問題が大きなテーマ、署名活動に協力をお願いします。

4、女性委員会

- ・ワンコイン講習会開催
- ・テーマ「安全登山と生涯登山」－山で役立つ体力づくり・身体のメンテナンス
- ・期日：11月19日（日）15：30～19：00
- ・講師：安村 淳先生 マウンテンゴリラ主宰 山岳ガイド
- ・場所：船橋市西部公民館 参加費：ワンコイン（500円）

5、組織委員会

- ・アンケート作成中

6、ふれあいハイキング（2018年9月30日実施予定）

- ・下見実施 神奈川県三浦半島 大楠山
10月1日（日） 障害者4名、県連7名 計11名
車椅子大変か、交代要員必要。
本番では障害者30名を含む100名程度の参加必要。

◆ 連絡事項

- 1、2018年労山カレンダーの申込み受付中。全国連盟と県連双方へ
- 2、会員数の報告 11月末の会員数の報告をお願いします。
次年度連盟費算定の基礎数となります。12月中旬ころまでに県連会長に報告。
- 3、リニア新幹線問題署名に取り組んで下さい。
南アルプスの自然破壊、トンネル掘削の残土処理、住民生活の破壊等大きな問題を抱えています。一人でも多くの署名を！
- 4、全国連盟総会開催（2018年2月17日・18日 府中市ホテル）
 - ・代議員3名を選出。
 - ・今年度入会歴20年会員の永年表彰があります。報告をお願いします。

◆ 県連役員選出について

- 1、役員会議の提案を受けて各会の検討状況報告。
 - ・自会の事として受け止めず、会の中でも他人まかせの意見もある。
 - ・3グループ分けは賛成。地域性も考慮して良いのでは。
 - ・各役職、委員会の役割内容を明確にしてほしい。
 - ・6会合同会議、県連合同会議で決まらなかった、今回もむつかしいのでは。
 - ・3グループ分けは致し方ない。
 - ・役員が全員交代では大変だ、一部は残留しては。
 - ・引継ぎには配慮して欲しい。
 - ・3グループ案は支持する。ただ地域性は考慮してほしい。
 - ・グループで5役+αを全部選出するのはキツイ、会長、理事長、事務局長の3役は各グループからの選出にして、その他は担当グループから選んでは。
 - ・再任も検討してほしい。役員の仕事量を軽くし、全体で支える体制にして欲しい。
 - ・会の中で理事会の論議提案の説明を実施した。
 - ・当会では選出が難しい、賛成しかねるの意見もあった。

<質疑・意見>

- ・次の段階での論議の為に、いろいろな問題がある事を踏まえた上での提案が欲しい、次の段階での論議の為に
- ・「地域性」を考慮したらどうかの意見に対して
集まりやすさとか機動性を考えたら地域でまとまった方が良い。
- ・11月理事会へ新たな提案（メリット、デメリットを含めて）が必要。
- ・大中小のグループ分け+地域性に配慮して欲しい
- ・各役員、委員会の役割を明確にしてほしい。

<役員発言>

- ・本日の理事会を受けて、役員会（11月7日）でグループ分け+地域性を基本として検討し、その討議内容と結果を県連理事・会代表者に報告する。
その内容を各会で討議していただき、11月の理事会（11月16日）で報告と討議を行います
- ・役員選出を各会が公平に分担するのは理想だが、会の現状（会員数や年齢、地域性等）を考慮する事も重要かと思う。山仲間の助け合いも大事だと思う。
- ・役員、委員会の役割については、合同会議、理事会資料として配布しているが、必要であれば再度まとめて配布します。

<会長よりのお願い>

- ・役員選出に対する、経緯、意見、質問、などを下記連絡先にお問い合わせください。可能な限り返答し意見交換をしたいと思います。
- 会の現状や役員選出に関して、率直な意見をお待ちしています。

広木 Eメール danphiro@zpost.plala.or.jp

090-8316-2020

全国連盟関連のお知らせとお願い

- 1、日本勤労者山岳連盟の第33回全国連盟総会が招集されました。
千葉県連からは代議員3名です。参加希望者は連絡をお願いします。
 - ・日時 2018年2月17日 午後1時 開会
2月18日 午後1時 閉会
 - ・会場 ホテルコンチネンタル（東京都府中市）
 - ・宿泊 総会会場と同じ
 - ・参加費・交通費は、全国連盟と千葉県盟が負担します。
 - ・永年会員の表彰 入会20年の会員が対象です。12月末までに
会場でまとめて連絡をお願いします。（申請書送付予定）
 - 2、「リニア新幹線で南アルプスの自然を壊さない要請に賛同する署名」
リニア建設に反対する署名です。多くの署名をお願いします。
署名用紙は、各会の県連理事にメール添付で送ります。
- ◆ 問い合わせ先 : 千葉県連会長 広木国昭
Eメール : danphiro@zpost.plala.or.jp

リレーエッセー

信仰の山 鳥海山 (2,236M) を登る

岳人あびこ 深草 (2017.10.20.)

本年8月、“岳人あびこ”が主催する、信仰の山、鳥海山山行にメンバーとして参加した。この山行の感想をリレーエッセイとして掲載させて頂く。山行メンバーは、当会のメンバー女性2名（内1名が今回山行のリーダー）と私の計3名である。

今回の鳥海山山行は、東京駅発夜行バスで象潟駅に出て、象潟駅からバスで鉾立口へ出る。鉾立口から登り、頂上御室小屋に泊まる、下山は御室小屋から吹浦口ルートを経て大平口へ降りる、実質2日間の山行である。東北地方は、出発日の夕刻迄大雨が降っていたが、鳥海山山行当日の天候は曇り後晴れの予報であった。天候が崩れないことを期待し山行に臨んだ。

・1日目～2日目（雨→曇り→晴天）

<東京駅→象潟駅→鉾立口→賽の河原>

東京駅から高速夜行バス乗車、翌朝早く曇り空の象潟駅に到着する。バスの振動と雨音で、睡眠は十分といえないが、夜行バスでの翌朝山行は慣れているので気にはならない。鉾立口行バス発車迄の約1時間を駅のトイレで洗面し、待合室で朝食の弁当を食べて待つ。バスに乗るとすぐ雨が降り出した。30分ほどで鉾立口に到着。鉾立山荘の休憩所で雨具をつけ、雨の中、山頂を目指し登山道に入った。

賽の河原あたりに差し掛かると、雨は小降りとなった。道の両側のいたるところに、高山植物が群生し、赤、白、黄、紫等の色とりどりの花々を咲かせている。雨で湿った岩々の間に咲く花の景色は、山水画を見る様で美しかった。この美しい景色を通り抜けると御浜小屋に到着した。小屋の前で小休止後、再び小田ヶ原、七五三掛に向け歩き始めた。

<御浜小屋→七五三掛→外輪山→七高山>

歩き始めてほどなく、雲が晴れ青空が広がり始めた。扇ヶ森登りあたりにさしかかるとみどりの山腹に鳥海湖がみえ、その先に目を移すと白い雲間に荘内平野、さらにその先に、空との境界線がわからな程青い日本海の展望が広がっていた。しばし立ち止まり絶景を堪能した。この展望を右手に、御田ヶ原を経て七五三掛へ、そして文殊岳、伏拝岳、行者岳の外輪山へと進む。計画では七五三掛から御浜小屋へ向かう予定であったが、この美しい展望との決別は名残惜しく、予定を変更し外輪山から七高山を経て御室小屋へ向かう。外輪山は、腰までのハイ松や灌木の枝が張り出していて少し歩きづらいが、鳥海湖、お花、残雪、日本海の景色を眺めると、その美しさに元気付けられる。

行者岳を少し過ぎ、岩がごろごろした道を登ると七高山のピークに到着した。信仰の山らしく、立ち並ぶ祈りの石碑の中に七高山の三角点あった。ここで記念撮影後、御室小屋に向かった。

<新山>

雪渓脇の足場の悪い道を下り、鞍部に降りると御室小屋と新山山頂へ向かう分岐に到着した。計画では小屋に荷物を置いてから新山登頂計画だったが、計画を変更しここから直接、新山頂上に向かった。新山頂上へ登る道は、峻険な巨岩が続く急な勾配である。その岩の上を一步一步登り始める。5分程登ると、岩の間にトンネルが見えた。トンネルの中には祠があり、祠を拝みトンネルを抜ける。ここが新山の“胎内くぐり”である。トンネルを抜けると岩の壁に突き当たる。岩にペンキで書かれたマル印や矢印をたどり登ってきたが、ここから印が見当たらない。本当にこの先を進めば新山の頂上に着くのか一瞬躊躇する。それでも構わず岩を這い上がると、やっと数人が取り付くことが出来る狭い岩場に出た。そこにペンキで“新山 2236m”と書かれた岩を見つけ、新山頂上に着いたことを認識する。雲間に広がる日本海をしばし展望し、記念撮影後、登って来た岩場を引き返し御室小屋へ向った。御室小屋に到着して知ったが、そのまま岩の上を前進すれば御室小屋の大物忌山頂神社の脇に出たようだ。ちょっと遠回りしたが、“胎内くぐり”を2回したので、ご利益は2倍と思いとす。

<御室小屋>

御室小屋に到着。定員 150 名の大部屋で荷物を解き夕食を待った。寝具は布団も枕もなく毛布 4 枚だけである。しかし本日の宿泊客は 40 名程だったので、残りの定員分の毛布は使い放題だった。これを使って快適な寝場所を確保した。夜間は小屋に吹き付ける風の音が強かったようだが、おかげで、私はほとんど気にならず快適な睡眠が摂れた。インターネット上で、この小屋の食事は旨くないと言う書き込みを見ていたが、朝夕ともに最近の山小屋並みで悪くはなかった。食後、小屋の入り口に立てられた鳥居越しに夕日を見た。鳥海山は信仰の山と思うと、その景色に幽玄さを感じた。

<歩行時間 6 時間 20 分>

・3 日目 (曇り→雨→曇り)

<御室小屋→扇ヶ森→御浜小屋>

朝食時、山小屋の主人から、本日は雨天であることを聞く。本日の計画は外輪山を経て吹浦口ルートで大平口に下山する予定であったが昨日歩いたので、小屋から直接御浜小屋へ、そこから吹浦口ルートで大平口に向かうことになった。雨具をつけて山小屋を発つ。出発時は曇りであったが、間もなく雨が降り始める。湿った岩で滑らない様に注意をしながら下りる。千蛇谷あたりで雪渓にぶつかる。踏み後がないため、向こう側で雪渓を渡ろうとしている男性 2 人組と、降り口の情報を交換し渡渉した。御田ヶ原あたりから風が強くなり扇ヶ森と御浜小屋の間あたりでは、強風に吹き飛ばされそうになりながら、前へ進む。風に煽られて歩みを止める事数回、やっとの思いで御浜小屋に到着した。

<御浜小屋→大平口→遊佐→我孫子>

御浜小屋から吹浦口コースを進み見晴台あたりで雨が上り、風も収まった。見晴台からは雨でぬれ苔蒸した石段を、足を滑らせない様に注意して下り、大平口に出た。大平口から自動車道を 15 分程歩いて大平山荘に到着した。大平山荘から乗り合いタクシーで遊佐西浜湯楽里へ向かう。途中、単独峰である、鳥海山の雄大な姿がタクシーの窓から見える、この山を登ってきたと思うと感慨深かった。公営温泉場“鳥海山温泉あぼん西浜”で入浴後。遊佐から新潟へ新潟から新幹線で上野を経て我孫子へ到着、無事山行は終了した。

<歩行時間 4 時間 20 分>

<終わりに>

夜行 1 泊、山小屋 1 泊の実質たった 2 日の山行であったが、雪あり、岩あり、花畑あり、それに鳥海湖と日本海の美しい景色、山の変化や美しさを凝縮して一度に体験出来た、楽しい山行であった。

<コースタイム>

1 日目：我孫子 8:02→東京駅八重洲南口 20:48/21:20→

2 日目：5:20 象潟駅 6:20→バス→銚立 6:45/7:10→賽の河原 8:54/9:04→御浜小屋 9:36/9:4
⇒小田ヶ原分岐 10:20/10:25⇒七五三掛 10:45/10:55⇒文珠岳 10:40/10:55⇒伏拝岳 (分岐)
12:30⇒行者岳 12:40/12:50⇒七高山 12:20/13:30⇒新山頂上 14:20/14:30 御室小屋 14:50
<歩行時間 6 時間 20 分>

3 日目：御室小屋 6:45⇒千蛇谷分岐 8:10⇒10 分休⇒七五三掛 8:20⇒御浜小屋 9:15/9:25⇒河原宿 9:45⇒見晴台 10:40/10:50⇒大平登山口 11:20⇒大平山荘 11:35/12:10→湯楽里上野 18:54/19:06
12:35/13:40→遊佐駅 13:55/14:13 (いなほ 10 号) →新潟 16:33/16:49 (MAX とき 336 号) →上野 18:54/19:06→我孫子 19:41
<歩行時間 4 時間 20 分>

-以上-



御室小屋鳥居と夕日



七高山・三角点にて

第34回 房総ロングハイキング

主催 千葉県勤労者山岳連盟ハイキング委員会

・日時 2018年1月27(土)～01月28(日) 一泊二日 (当日参加可)

・集合 七里川温泉：沖津屋 27(土) なるべく 16時30分迄集合

28(日) 当日参加 6時00分集合出発

君津市黄和田畑 921-1 電話 0439-39-3211 フリーダイヤル 0120-397428

・28日コース 石尊山—麻綿原—烏帽子山—鶏毛山—坂本駐車場
6:00 出発・・・石尊山 6:40/50・・・麻綿原 10:00/10・・・分岐 10:30・・・一杯水林道・・・W0
(ツクバネ樫目印) 入口 10:40/45・・・(東大演習林) 大平歩道入口地点・・・W15：烏帽子
山々頂 11:50・・・巻道合流地点付近 12:00 (昼食) 12:20・・・W33：硯石分岐・・・向峯林
道・・・鶏毛山W45・・・民地・・・坂本駐車場ゴール 15:00 着予定歩程約9時間00分(休憩
含む) 25,000/1 地図「上総中野」「安房小湊」

・募集人員 約60名

費用 6,000円(一泊二食と弁当、移動) 当日参加 1,000円(弁当、移動、)

締切 12月25(月) 各会責任者へ申し込む 11月末中間報告

・直接電車で参加の方

電車時刻(往) JR久留里線 木更津発 13:01 上総亀山着 14:08

々 15:48 々 16:54

上記着の時刻に合わせて送迎車が出ます。

自家用車：直接七里川温泉に来て下さい。スペース5台位(出来ればJRでお願いします)

・行動予定

1月27(土) 15:30～ 受付開始
17:30～ 挨拶、ガイダンス(日程、コース説明)
18:30～ 夕食、交流会後就眠

1月28(日) 5:00 起床、掃除、支度
5:30 朝食(弁当を受け取る)(食事は自由)
6:00 温泉脇出発
10:00 麻綿原
15:00 坂本駐車場着(JR、バスで送迎)

・電車時刻(復) 安房天津駅 15:00 発：千葉 16:50 着

安房天津駅 16:21 発：千葉 17:42 着 18:03 発：千葉 19:53 着

・東葛地区(東葛、松戸、柏、我孫子)はバス利用して、前日軽登山してから
集合地(七里川温泉)に行く事にしました。

行先 鋸山：車力道コース～観月台コース

・二日目 合同山行

※各会でまとめて申し込む事

・申し込み先 ハイキング委員長 松戸山の会 桑原年一 まで

・申し込み問合せ連絡先 ふわくハイキングサークル 実行委員長 中原 紀代治
(TEL/FAX 0475-34-4757)

2017 事故防止・経験交流集会の案内

教育遭難対策委員会

掲題の件、昨年の同集会での課題（全国重大事故分析と学習が必要）と本年度の県連発生事故を踏まえ、下記の内容にて行います。

県連では、近年は事故件数は多くないものの、相当の重大事故が発生しております。

従い、各会の事故防止担当者は是非参集されることを期待します。そして、本集会の趣旨（事故の共有化と再発防止 各会交流）に興味ある方と県連諸活動に参加希望の方の参加も歓迎です。

各会よりの積極的な参加を期待します。

記

- 1) 主催 千葉県連盟・教育遭難対策委員会／協力：千葉県連盟救助隊
- 2) 日時／場所 11月11日（土）－12日
11日 13:00<12:00 受付開始>－12日 12:00 終了
大山青少年研修センター 鴨川市平塚 1717-15 04-7098-033
- 3) 内容 11／11 ①今年度の事故に関する報告 13:10－14:30
茂原道標山の会 山の会「岳樺クラブ」 千葉こまくさHC ちば山の会
②全国事故事例のディスカッション 14:40－15:30
事例1：穂高滝谷出合徒渉での事故
事例2：岩場ハイクでの事故
③事例研究発表 15:40－17:00
④救急法等のデモ 17:10－17:40
⑤夕食／各会紹介／交流会 18:00－21:00

11／12 ⑥救急法及び搬送法講習：県連救助隊 8:00－10:00
ロープワーク基礎
必要装備：7点セット：（スリング 60cm2本 120cm1本
カラビナ3<うち環付き1> 補助ロープ 6~8mm*10m）
「ツエルト」
⑦渡渉の模擬実習 <前日の事例研究を踏まえる> 10:10－11:30
- 4) 参加費 3,000円／人。交通は各会毎に。 単日での参加可<費用1,000円>。
- 5) 装備／食事 装備（宿泊用）：卓上コンロ コッヘル クーラーbox 食器等。
食事／飲み物は各会毎に。
- 6) 宿泊設備 風呂、布団、食堂（炊事室）有り。
- 7) 実施規模 40名（スタッフ含む）
- 8) 参加申込／締切 教育遭対委員会 伊東へ10／28まで。mail:itou2385@yahoo.co.jp
会場の都合上、申込多数の場合は、調整する事が有ります。申込書添付。
- 9) 問い合わせ先 教育遭対委員会 岡田：ken-ichi@f4.dion.ne.jp 080-4197-7700

第11回ワンコイン講習

主催 千葉県連盟女性委員会

テーマ

安全登山と

山で役立つ

生涯登山

オレにまかせろ!

お待たせしました!!
第3回・第4回で好評だった安村先生の登場です。
エベレスト登頂の写真を持参して高所登山の話もあります。



講師 安村 淳 先生

1946年生まれ、16歳より山登りをはじめ、岩登りを極め、高所登山ガイドとしてシシヤパンマ、チョー・オユー・エヴェレストなどに登頂。山岳ガイド・危急時対応技師指導員 あんまマッサージ指圧師

実施日 2017年11月19日(日) 15時30から19時

場所 船橋市西部公民館4階 (JR下総中山駅より徒歩10分)

参加費 ワンコイン(500円) (労山会員外も同額です)

問い合わせ先:千葉県勤労者山岳連盟 ホームページ事務局への問い合わせ

女性委員会では、山仲間と、いつまでも楽しい登山やハイキングを続けるために、過去の遭難事故事などに学び、事故に遭わない取り組みをしています。

同時に、いつでもどこでも出来るトレーニング ・正しいメンテナンス を紹介してきました。

今回は、・山での体のトラブルの原因と対策について、山岳ガイドであり、あんまマッサージ指圧師である、その道の達人・安村先生に学びます。

労山会員外・当日参加・歓迎します

「キリマンジャロ&サファリ」に参加して

羽鳥健一郎 東葛山の会

はからずも良いタイミングで県連の「キリマンジャロ登山」の企画に参加できました。私的には準備万端とはいかなかったものの出発する一週間前には「荒川三山～赤石岳」縦走で百名山も終わり区切り良く参加が出来ました。良かったこと、反省点を以下に箇条書きしてみました。一方、感動も沢山ありました。下手な短歌にまとめました。

【良かったこと】

- ① 出発前に三浦雄一郎さんが関係する「ミウラ・ドルフィンズ」で3回の低酸素トレーニングをしました。呼吸法等を学び大変参考になりました。2回目の時に偶然にも他の海外登山に行く同じ県連の数名がトレーニングに来ていたことも驚きでした。
三浦さんにもお会いでき握手しながら「ゆっくり登れば大丈夫です」と激励の言葉もかけてもらいました。
- ② ポーターの皆さんの強力な支援無くしては今回の登山は成り立ちません。大勢のポーターの協力があって初めて6泊7日の縦走に挑戦できました。
- ③ 他会の皆さんと苦楽を共有できました。ありがとうございました。
広木会長には事前講座で海外登山の心得等をお聞きでき参考になりました。また安彦リーダーには準備から帰国までの間、旅行社以上の対応をして頂き参加者全員が安心して参加できました。感謝の一語に尽きます。

【反省点】

- ① 初日のテント泊で深夜トイレに行きましたがトイレから自分のテントに戻れなくなりました。山で初めて恐怖感を覚えました。ヘッドンだけではテントの識別ができず行ったり来たりして3度目で無事にテントに戻れ安堵しました。
明るいうちにトイレまでの順路を確認することが抜けていました。想定外のヒアリハットでした。
- ② テント泊5日目に疲労がピークになりました。それまでは食事も睡眠も順調でしたが。夕食後3度ほど吐きました。これも高山病の症状かもしれません。深夜の出発でしたが残念ながら登頂は断念しました。朝起きてから4名で一足先に最終キャンプ地へ下りました。
- ③ これだけ長いテント泊縦走は初めての経験でした。体力強化や最終日に如何に余力を残すか等、課題が残りました。

「キリマンジャロ&サファリ」に参加して 短歌

- ・ アフリカの地図を広げてタンザニアキリマンジャロの場所を探しぬ
- ・ 山愛すシニア仲間ら集いたりキリマンジャロへの期待と不安
- ・ 鉄人は八十路超えても柔らかき手を差し伸べて我らを励ませり



- ・ ポーターら二十キロもの荷物背負い足取り軽く我ら追い抜く
- ・ 暮れなずむキリマンジャロのキャンプ地で崇^{あが}め見上げる氷河の頂き
- ・ 「ポレポレ」と「ジャンボジャンボ」と声交しキリマンジャロへ高度は上がる
- ・ 酸素量次第に薄くなりたるも4500m超えラバタワに立つ
- ・ ジャイアントシネシオの木々聳^{そび}えたる岩多き道バランコキャンプへ
- ・ ファスナーの開け閉めの音寝袋の中で聞きつつ我は微^{まどろ}睡む
- ・ 四千を超える高所を登り下りキリマンジャロへとテントも五泊目
- ・ 肝心の登頂の夜我が身体疲労はピーク何度も吐きたり
- ・ 断念しバラフキャンプを下山する白き頂振り返りつつ
- ・ 登山終えムウェカゲートにポーターのキリマンジャロの讃歌は響く



タランギーレ・シンバ・ロッジからの日の出

- ・家畜追う子どもら顔輝けりアフリカの草原は何処までも広し
- ・カラフルなケープを纏^{まと}い武器を持ちナショナルパークを守る兵士ら
- ・タンザニア星煌^{ほしきら}めきて心地よき風吹き抜けしロッジの蚊帳^{かや}を
- ・タランギーレナショナルパークの朝焼けを見つめる我に鳥の囀^{さえず}り
- ・パオバブの巨木^{そび}聳ゆる大平原^{つちぼこり} 土埃あげ車走りぬ
- ・ライオンは捕らえた獲物を食い千切る同じ動作を何度も何度も
- ・象の群れ眺めつランチ頂きぬシニアら皆童心に帰る
- ・親を真似鼻で上手に草を食む小象の仕草暫し見惚れん
- ・シマウマの群れは水場に整然と頭を垂れて並び休めり
- ・夜半起きアフリカの星仰ぎみん日本と同じ虫の音響く



- ・アリュウシャのコーヒー店に立ち寄りてキリマンジャロの香り楽しむ
- ・百年の歴史を刻むホテルにて山の名付いたビールで祝杯
- ・十日間剃らず伸ばしたる髭に触れアフリカの旅振り返る夕べ
- ・紫のジャカラントの花咲き誇るアリュウシャの朝人皆早し
- ・花の名は「昨日今日明日」アリュウシャのホテルの庭に香り放ちて



アリュウシャホテルからのジャカラントの花

6泊7日のテント泊で“キリマンジャロ”へ

東葛山の会 桐生 千恵子

遠いアフリカのキリマンジャロ、夢にも見なかった高い山に行くチャンスに恵まれて、迷わずに参加を決めた。

成田を出発してから3日目の朝(9/21)、ホテルの庭に登山のスタッフが集まってきた。ガイド、ポーター、コックで34名になった。我々メンバーは11名で、ガイドと一緒に2台の車に分乗して出発。登山口に着く頃から、まさかの雨が……。

雨具を着て樹林帯をモクモクと歩き、2650mのキャンプ場に着く。色とりどりのテント村にウロウロしていると、「私達のグループテントは黄色だ」と言われる。食堂の大きなテントも黄色で、テーブルにはタータンチェックのテーブルクロスが掛けられ、椅子も用意されていた。「ウァー椅子まで担いできたの」ちょっと感激！ビックリ！

夜半まで降っていた雨も朝には晴れて、美味しい朝食をいただき出発する。樹林帯を抜けるとキリマンジャロが見えて気持ちが高揚してくる。シーラ1・キャンプ場に着くと、登山スタッフの歌と踊りの歓迎があり、まだ皆元気いっぱいなので一緒に踊る。夜トイレに行くと満天の星空で星が大きい。

二人用のテントは余裕がある。東葛女組は同室でした。ペアーの菊池さんと女の固い約束をした。『夜のトイレは絶対に一緒に行こう』危ないから？迷子にならないように？ビッシリと張られたテントの紐と大きな石などに気を付けて、手を繋ぎ声に出して確認しながらの夜のトイレは毎日続いた。

テント3日目の朝は寒かった。キリマンジャロの左肩から朝日が昇るとたちまち暖かくなる。近づいてくるキリマンジャロと周りに一面に咲いている白いドライフラワーのような花を愛でながら歩く。

テントがゆるい斜面に張られているので、マットから寝袋がずれて足が冷たくなり目が覚める…を繰り返す。マットの下に銀マットやレジャーシートを敷いているからかな？でも寒いから敷く。

テント4日目3850mのシーラ2・キャンプ場での朝食がまったく進まない。今まで美味しく感じたスープの匂いまで×、好きなコーヒーも×、仕方なく持ってきた味噌汁と少しのパンにする。

歩き始めてすぐに吐き気に襲われる。「全部吐いちゃえ」とリーダーの声。涙目になりながら無理矢理に吐く。

今日は4600mまで登り、又下り3900mのバランコ・キャンプ場へ7時間位歩いた。見たい・会いたいと思っていた『ジャイアント・シネシオ』が林立する不思議な景観の登山道をランチもほとんど食べないのに楽しく歩けた。

「あれ～リュックを背負ってない人がいる」『ガイドに持ってもらっていた』

それも可能なのか。気が楽になる。

夕食もほとんど食べられないのに空腹感もなく、テントの地面が平らだったのか4泊目で初めてぐっすり眠れた。

9月25日。いきなり岩場の上りだ。ちょっと危ないなと感じるときにはガイドが手を貸してくれる。手など差し出された事がないので最初は戸惑ったが、気分がいいものですよ。今日のランチは弁当ではなく途中のキャンプ場で、食堂用のテントでゆっくり暖かいランチでしたが、白湯しか喉を通らない。

人間こんなに食べなくても歩けるのですね。お腹に蓄えている脂肪が燃えるのかしら？

どんどん標高が高くなり4673mのバラフ・キャンプ場に着いたのが16:30。夕食に持参した『おかゆ』を温めてもらって流し込む。幸い吐き気もない。下痢も治まったようだが少し頭が痛いように感じて痛み止めを飲む。おまじないにビタミン剤も飲む。

少し仮眠して22:30テントに集合する。山頂アタックには6人の仲間とガイド達でヘッドランプを付けて歩き始める。富士山登山のように山頂へ続くヘッドランプの明かりが天まで届いているのかと思う程、星空と一体化して見えた。緊張のせいかな寒さを感じない。下にはタイツ2



枚と雨具を昨日までのズボンの他に **シーラ1・キャンプ場でガイドと**履いた。上着には薄いダウンの他にも着込み、冬用の上衣を着ている。ゆっくり・ゆっくりしか脚が進まない。途中で3人が下山。メンバーが3人とガイド1人の4人になる。ここでガイドにリュックを背負ってもらう。

夜が明けて足元が見えてくるころから、足幅くらいの歩きに呼吸を合わせてモクモクと歩き、「ヤッター！」『ステラ・ポイント 5756m』に到着。

真っ青な空に真っ白な氷河！感激に涙の代わりに鼻水とよだれでひどい顔をガイドが拭いてくれて記念写真に納まった。

長い一日だった。最後のキャンプ地まで15時間位歩いた。翌日は3時間位の歩きでゲートに到着。無事に歩き切った記念写真を撮って、6泊7日のテントでのキリマンジャロ登山は終わった。

CLの安彦さん、そして県連の仲間、タンザニアの皆さんに感謝です。

アフリカ最高峰キリマンジャロ登頂とサファリこぼれ話

安彦 秀夫（東葛山の会）

参加者：11名（男性5名、女性6名）

東葛山の会：5名、山の会らんたん：3名、ちば山の会：2名、岳人あびこ：1名

『千葉県勤労者山岳連盟海外委員会』募集で、赤道直下（南緯3～4度）の『アフリカ最高峰キリマンジャロ登頂とサファリ』を、9月19日（火）～10月1日（日）の13日間で楽しんできました。山頂（ステラ・ポイント）に立てたのは、3名でした。

<1>まずは調査から…

キリマンジャロは、雪や岩登り等の特別な技術が無くとも登れるので、いつか登ってみたい…という思いを持っていました。また、山頂付近にある氷河が近い将来消失する…というニュースを耳にし、思い切ってチャレンジすることにしました。

複数の旅行会社に『日程、ルート、費用、参加者数』等を提示し、具体的な日程と旅行費用を提案して貰い、私の考えに限りなく近かった株式会社ワイルド・ナビゲーションに手配を依頼することにしました。

『ちばニュース3月号』で参加者を募り、私を含めて11人と参加者が決まったところで、更に旅行会社と具体的な日程や旅行費用などを詰めました。

登山は、アップダウンが多くあるものの、比較的高所順応し易いと言われる『西から南麓を歩き東に回り込み頂上を目指す』もので、キリマンジャロの眺めは素晴らしく、6泊全てをテント利用で歩く『レモショ・ルート』としました。

サファリは、林立するバオバブと大群のゾウなどを見たく、更に、比較的手ごろな料金も魅力的なタランギーレ国立公園で楽しむことにしました。

<2>キリマンジャロ登山：レモショ・ルート 9月21日（木）～27日（水）<7日間>

① 9月21日（木）レモショ・ゲート（登山口）→ムクブア・キャンプ（雨）

モシのホテルで、朝、登山スタッフ34人と合流しました。私達は、荷物を前もって3つに分けて準備をしておきました。

一つ目は、登山に不要な荷物は、スーツケースに入れてホテルに預けました。

二つ目は、ポーターに持ってもらう物（シュラフ、マット、着替え等）で、大きめのバッグに入れ、合流した登山スタッフに預けました。一人約10～15kg。

三つ目は、登山中に自分で背負う荷物（雨具・水・行動食等）で、ザックに入れました。

登山スタッフの紹介や挨拶の後、ポーターと荷物は別の車で、私達は2台の車にガイドと共に分乗しホテルを出発しました。途中、食材などを購入し、3時間のドライブで国立公園管理事務所のある『ロンドロシ・ゲート』に着き、入山登録手続きをしました。

ゲートに着く直前から雨が降り出し、手続き後、雨具を着け、再び車に乗り、『レモシヨ・ルート登山口』に移動し登山を開始しました。

雨の中、『アビシニアコロブス（体毛が白と黒のオナガザル）』の歓迎を受け、樹林帯中の『ムクブア・キャンプ』に無事着きました。

雨の中のテント泊でしたが、夜中にトイレに起きたら、満天の星空に変わっていました。
<コースタイム> レモシヨ・ゲート（登山口）14：05…ムクブア・キャンプ16：30

② 9月22日（金）ムクブア・キャンプ → シーラ1・キャンプ（晴）

ポーターが準備してくれた朝食を摂り、いざ出発。何度もアップダウンを繰り返し、見晴らしの良い峠を越え、キリマンジャロが姿を現し、荒涼とした岩交じりの高原にある『シーラ1・キャンプ』に着きました。

遅めの昼食を済ませ休憩した後、登山スタッフと私達がお互いに自己紹介しあい、歓迎の歌に続き、歌に合わせて踊りが始まり、私達も一緒に踊りの輪に入りました。

夕陽を浴びたキリマンジャロを眺めながら、高所順応を目的に1時間ほど散策しました。
<コースタイム> ムクブア・キャンプ8：25…シーラ1・キャンプ14：20

③ 9月23日（土）シーラ1・キャンプ → シーラ2・キャンプ（晴）

非常に寒い夜で、朝起きたら霜柱があり、周りの草花は白く凍てついていました。キリマンジャロ山頂の西肩から朝日が昇り、急に温かく感じてきました。

ヒース（荒地に繁茂するツツジ科の常緑小低木）の生い茂る荒涼とした高原を、キリマンジャロを正面に見ながら歩き、『シーラ・キャセードラル』への道を右に見送り、体調急変の登山者を四駆自動車運ぶための道を横切り、1本の『ジャイアント・シネシオ』の下で写真を撮り、最後の登りを終えて『シーラ2・キャンプ』に着きました。

昼食後、1時間ほど高所順応を目的に散策しました。ガイドのお薦めの『ロック・アーチ』で写真を撮り、キリマンジャロをバックに思い思いのポーズで写真に納まりました。

テントに戻り、夕陽に照らされるキリマンジャロを暗くなるまで見つめていました。
<コースタイム> シーラ1・キャンプ8：20…シーラ2・キャンプ12：40

④ 9月24日（日）シーラ2キャンプ → ラバ・タワー → バランコ・キャンプ（晴）

夜中にトイレに起きたら下痢で、その後、何度もトイレに通いました。正露丸の効果は全く現れず、今日1日が長そうです。

朝起きたら、チーフ・ガイドのMr. マテイから『ハウ・アー・ユー？』と、いつものように聞かれました。しかし、『ファイン！』とは答えられず、下痢の状況を話しました。

前日に続き荒野を歩き、砂礫の道を進み、見晴らしの良い峠で、ガイドが持って来てくれた昼食を摂りました。トイレブースに寄り、岩の道を登り切って『ラバ・タワー4600m』へ。多くのハイカーが休憩していました。ここでも、トイレブースに寄りました。

岩の道をぐんぐん下り、『ジャイアント・シネシオ』が林立する道を更に下ると、色とりどりのテントのある『バランコ・キャンプ』が見えてきました。

受付を済ませ、マイ・テントへ。荷物を整理し、食事用テントでお茶を飲んでいたら、イギリス人登山ガイドが来て、私の下痢の症状を確認し薬を分けてくれました。登山ガイドの Mr. フォーカスが心配してくれて知り合いのガイドを呼んでくれたようでした。薬は、『アジスロマイシン（イギリス製）』と『生理食塩水（ネパール製）』でした。外国製の薬は即効性がある…ということをもっと信じていましたので期待しました。

<コースタイム> シーラ 2・キャンプ 7:55…ラバ・タワー 12:50-13:05…
…バランコ・キャンプ 14:55

⑤ 9月25日（月）バランコ・キャンプ→ カランガ・キャンプ→ バラフ・キャンプ（晴）

小さな氷河が張り付いたキリマンジャロの南壁を見上げて1日が始まりました。

まずは、垂直とも思われるような岩壁『バランコ・ウォール』を慎重に登り、岩の稜線を進み、峠を2つ越えてカランガ川で小休止し、最後の急坂を登り切って、『カランガ・キャンプ』に着きました。温かい昼食を摂り、再び延々と続く緩い登りを辿り、峠で休憩後、『バラフ・キャンプ』に着きました。何とか下痢は収まってくれたようでした。

夕食時に、『山頂アタック希望者は、22:30に食事用テントに集合する』ことを確認し、テントに戻り仮眠しました。この時点での希望者は、9人でした。

<コースタイム>バランコ・キャンプ 7:55…カランガ・キャンプ 12:15-13:10（昼食）
…バラフ・キャンプ 16:30

⑥ 9月26日（火）バラフ・キャンプ → ステラ・ポイント 5756m

→ バラフ・キャンプ → ムウェカ・キャンプ（晴）

食事テントに集合したのは、6人でした。ヘッドランプの灯りを頼りに、ガイドと共に出発。ゆっくりゆっくり進み、直ぐ上のキャンプ地（名前を聞きましたが忘れました）を過ぎた頃より足取りが遅くなり始めました。2人がゆっくり登るということで分かれ、続いて1人も下山を決意し、結局、3人とガイド1人の4人が残りました。この先1人でもギブアップしたら、その時点で下山する…という状況になりました。

マウエンジ峰から昇る朝日を背に、足取りは遅いものの確実に登り、レモシヨ・ルートの山頂『ステラ・ポイント 5756m』に登り切りました。ヤッター！4人で円陣を組み登頂を祝し、山頂標識の前で記念写真に納まりました。

体力と時間の関係で、『ウフル・ピーク 5896m』には足を延ばさず、皆が待つキャンプに走り下りました。アタックしなかった5人は、先に降りたようではありませんでした。

仮眠をとる間もなく昼食を摂り、荷物を纏め、『ムウェカ・キャンプ』に下りました。

<コースタイム> バラフ・キャンプ 23:10…ステラ・ポイント 7:10-7:30

…バラフ・キャンプ 10:20-12:15（昼食・撤収）…ムウェカ・キャンプ 16:10

⑦ 9月27日（水）ムウェカ・キャンプ → ムウェカ・ゲート（下山口）（晴）

ゲートまで緩い平坦な道…ということでしたが、樹林帯のかなり傾斜のある下りの連続で、時々、樹林の間からキリマンジャロが見え、立ち止まり振り返り見ました。

林道に降り立ち、小さな石ころのある道を下り、『ムウェカ・ゲート』に着きました。歩き通した感激を胸に標識の前で記念写真を撮り、管理事務所で下山の記帳をしました。

登山スタッフ 34 人のサポートに感謝し、一人一人に固い握手を交わしながらチップを渡しました。それに応えて歌と踊りで私達の健闘を讃えてくれ、一緒に踊りを楽しみました。

迎えの車でモシのホテルに行き、『登頂証明書』3 枚を貰い、前日に降りた 1 人とも合流でき、サファリカー 2 台に分乗しタランギーレに向かいました。

<コースタイム> ムウェカ・キャンプ 7:00…ムウェカ・ゲート 10:10 (下山届・解散式)
ゲート 11:00⇒モシ: マウンテン・イン 11:50 (荷物受取) 13:00⇒

登頂者 3 名と現地ガイド



ステラポイント (5756m)

<3>サファリ: タランギーレ国立公園 9月27日(水)~29日(金)

① 9月27日(水) モシ: マウンテン・イン → タランギーレ・シンバ・ロッジ (晴)

夕方、マサイ族(?)の待つロッジに着きました。しかし、準備されていたのは、『ダブルベッド1台の部屋』であったため、『ベッド2台の部屋』に変更して貰い、夕陽が沈みかける頃、やっと各ロッジ(部屋)に案内されました。

夕食では、無事キリマンジャロ登山を終えたことを祝い、登山スタッフやサファリカーのドライバーのお薦めの『キリマンジャロ・ビール』で乾杯しました。旨い!

<コースタイム> マウンテン・イン 13:00⇒タランギーレ・シンバ・ロッジ 17:50

② 9月28日(木) サファリ1日目 (晴)

双眼鏡を首から下げてサファリカーに乗り込み、サファリがスタートしました。

ずーっと見たかったバオバブの木々が目の前に…。直ぐにインパラやシマウマを見て興奮!ゾウの親子連れやキリンも…。ライオンが獲物を捕らえて食事中!それを周りの動物や鳥が遠巻きに囲み、おこぼれを待っているようでした。群れを成しているバッファローやヌー、昼寝中のチーター(?)、ブッシュバック、イボイノシシ、ダチョウの夫婦、群れを成して大空を飛び回るホワイトペリカン、サファリカーの前を横切るシママングース。

素敵な昼食を挟んで、丸々1日のサファリを堪能しました。

<コースタイム> ロッジ8:10⇒(昼食11:50-13:00)⇒ロッジ16:45

③ 9月29日(金) サファリ2日目 (晴)

ロッジの前でマサイ族と一緒に記念撮影をした後、2日目のサファリに出ました。前日と違うコースを走り水辺へ。シマウマやバッファローなどが川に入り水を飲んでおり、遠くで、バッファローが列になり、向こう岸に移動していくのが見えました。

サファリカーを走らせたところ、バッファローの大群が列をなして移動しているところでした。それも延々と…。足音!土埃!うめき声!サファリカーの直ぐ目の前に広がる光景に大興奮してしまいました。

アルーシャへの帰りの途中でコーヒー園に寄り、産地直売のキリマンジャロ・コーヒーをお土産に買いました。サファリカーの車窓からは、コーヒーの白い花が見えました。

<コースタイム> ロッジ8:10⇒(昼食12:00-13:00)⇒コーヒー園14:50-15:30
⇒アルーシャ・ホテル16:00

<4>食事はどうだった…?(ホテル、ロッジ、登山中)

最初の夜のホテルでの夕食の『牛肉』には参りました。固過ぎて切るのに苦勞し、やっとなら入れたものの噛み切れず半分以上を残しました。魚のカレーを頼んだ人は美味しく食べられたようでした。翌日の朝食は、美味しかったです。

他のホテルとロッジでの食事(どちらもビュッフェ)も美味しかったです。また、サファリ1日目の昼食は、とても美味しく感激しました。大自然の真ただ中でやさしい風が吹き、木陰でいつまでものんびり昼寝でもしていたい気持ちになりました。

登山中の食事も、食材に制限がある中で、まあまあだったと思います。但し、連日の食パンには辟易しましたが…。

<5>登山中のトイレは…?

キャンプ地のトイレ全てが、『金隠しの無いどちらが前なのか分からないボットン便所』でした。大と小を同時にすることに違和感を抱きながらも何とか済ませました。

あるキャンプ地は、ゴツゴツした岩交じりの傾斜地で、トイレが高い所にあり、夜中にテントからトイレに行くだけでも息が切れてしまいました。何せ4000mの世界ですので…。

また、初日の林間のキャンプ地では、夜中にトイレに行き、テントにスムーズに戻れない人がいたようです。何度も行ったり来たりを繰り返し、やっとテントに戻れた人や、テントに戻ることを一瞬諦めかけた人もいたほどでした。

<6>体調はどうだった…?

心配した高山病でしたが、幸運にも、頭痛、吐き気、不眠、呼吸困難などの症状を殆ど感じることはありませんでした。しかし、登山3日目の夜から頂上アタック前日まで下痢に悩まされ、その後は、激しい胃痛に襲われました。酷い時は、あまりの痛さでテントの

中で悶えていました。イギリス人ガイドから貰った下痢止め薬の副作用では…とっています。胃痛は帰国後3日目にやっと無くなりました。

他の参加者も程度の差こそあれ、頭痛、嘔吐、下痢などの症状があったようです。

今回初めて、高山病予防薬(?)として『ダイアモックス』を医者から処方して貰い持って行きましたが、飲むタイミングを逸して飲みませんでした。

<7>飛行機乗り継ぎ&復路搭乗手続き

ドーハ空港(カタール)で往復とも乗り継ぎをしましたが、非常に大きな空港で、往路での乗継ぎ時間が5時間半と長かったため、搭乗ゲート案内が直ぐには表示されず、やっと出発3時間前に表示され移動できました。

復路では、乗り継ぎ時間は2時間半ほどで、往路での経験もあり、余裕を持って行動でき、時間を有効に使って、皆それぞれがお土産を購入できたようでした。

帰りのキリマンジャロ空港では、手荷物・機内預け荷物検査、チェックイン、荷物預け、出国手続き、そして再び手荷物検査を経て、やっと搭乗待合室に着いたと思ったら、既に搭乗が始まっており、『間もなく搭乗終了!』という係員の声に促されて、コーヒーのみを買って飛行機に乗りました。

<8>宿泊(ホテル、ロッジ、テント)は、快適…?

今回は、ホテル1泊、テント6泊、ロッジ2泊、ホテル1泊の順での現地10泊でした。

最初のホテル『マウンテン・イン』は、コテージ風の部屋で、窓ガラス(ルーバー)は壊れ、夕食後に強い雨が降ってきた時は慌ててしまいました。でも雨は入りませんでした。

最後のホテル『アルーシャ・ホテル』は、リニューアルしたばかりで、広く落ち着いた雰囲気を見せており、参加者からは、『いつも最後のホテルは豪華ですね!』という言葉が寄せられた程でした。

ロッジは、タランギーレ国立公園に接した広い荒野にテント仕立ての建物が一棟ずつ離れのようにあり、公園にはフェンスが無く、野生動物の往来はごく当たり前で、昼夜、銃を持った係員が巡回していました。

テントは、2人用テント6張りで、私達が出発した後に撤収し、次のキャンプ地に私達が着いた時には既に張られている…という繰り返しでした。登山スタッフに大感謝です。

<9>巨大植物に魅せられて…

今回、是非とも見たかった巨大植物は、2つありました。

『ジャイアント・シネシオ』は、登山4日目の『バランコ・キャンプ』手前の谷を下る際に、山の斜面一杯に林立していました。過酷な気象条件の中で、これほど大きく(高く・太く)成長するには大変だろうなあ…と改めて思いました。

『バオバブ』は、15年程前に、アメリカの『ディズニー・ワールド』のアフリカゾーンで見た時の印象が強烈で、いつか群生するバオバブを見てみたい…と思うようになりました。それで、今回のサファリは、バオバブが多い『タランギーレ』に迷わず決めました。

多くの巨大なバオバブが堂々と立っており感激しました。空洞のあるバオバブでは、その中に入り写真も撮りました。あの一種独特な姿（形状）に、改めて心を魅かれました。

<10>チップはいくらなの…？

いつも海外旅行をする際に頭を悩ませることの一つに、『チップ』があります。日本には無い制度なので、皆さんも同じ思いをしているのではないのでしょうか？

今回特に悩んだのは、『登山スタッフ』と『サファリ・ドライバー』へのチップで、旅行会社から具体的な提案をしていただき、それに沿って、予め封筒に入れて準備をしました。

登山スタッフ 34 人には、下山後の別れの時に一人一人に手渡しました。

- ・チーフ・ガイド（1 人）USD100-、
- ・アシスタント・ガイド（4 人）USD70- ×4、
- ・チーフ・コック（1 人）USD40-、
- ・アシスタント・コック（1 人）USD35-、
- ・食事時のウェイター（2 人）USD35- ×2、
- ・一般ポーター（25 人）USD30- ×25

また、サファリ・ドライバー2 人には、タランギーレ往復やコーヒー園への立ち寄り、空港への送迎、そして、感動の『バッファローの大群の大移動』等に感謝して、1 人『USD80-』と奮発しました。（cf. ミネラルウォーター1.5L=USD1.3/一般の店~2.0/ホテル）

<11>入出国カード記入は…？

これまでは、飛行機内でカードが配布されていましたが、今回は配布されず、入国検査直前の、なんとなく急かされた雰囲気の中での記入となりました。

しかも、ガイドブックや旅行会社から貰った記入例と異なった書式のカードで、記入例に沿って下書きをして心の準備をしてきた人にとっては、想定外の結果となりました。

同様に、帰りも慌ただしい中での出国カードの記入となりました。

<12> 旅行会社日程表などと違うが…

『キリマンジャロ下山日の昼食』、『タランギーレ・シンバ・ロッジの部屋』、そして、『アルーシャ・ホテルの昼食』等が、旅行会社から送られた日程表と異なっていました。

具体的には、昼食 2 食は、日程表には『×』になっていましたが、素直にホテルからの申し出を受け入れました。また、部屋については、交渉は難航したものの『各部屋ダブルベッド 1 台』から『各部屋ベッド 2 台』に変更して貰いました。

タンザニア最後の食事になったアルーシャ・ホテルでの昼食は、ステーキ等を注文したのですが、なかなか運ばれてこなく焦りました。催促をしてやっと出てきました。そのため、ホテル発が 1 時間遅れてしまい、キリマンジャロ空港での出国手続きに影響しました。でも、何とか飛行機に乗り込むことができ、帰国の途に就けました。

<13> 登山を終えて

帰りの飛行機から、夕陽に照らされているキリマンジャロ頂上付近を望むことができ、アタック時の事を思い出しながら、窓に額を着けてジーンと見つめていました。

山頂（ステラ・ポイント）からの展望を体感できたのは僅か 3 人でしたが、日中は、キ

リマンジャロを見ながら歩き、テントからは、朝焼け・夕焼けの雄姿を堪能することができました。

また、サファリでは、思ってもいなかった『バッファローの大群の大移動』や『水辺で獲物を射止めて食べているライオン』等のタンザニアならではの貴重な一瞬に接することもできました。

登山中は、参加者の皆さんの体調変化や悩みなどに十分に配慮が行き届かず、時々厳しいことを言う場面もありました。それにも拘らずご協力をいただき、大きな事故もなく帰国することができ、企画者としてホッとしています。

敢えて苦言を呈するとすれば、今回のような高所登山に対しての心構え・準備は適切であったのか…を、参加者各人が再度考え、今後の山行に活かしてほしいと思います。

最後に、貴重な思い出を共有できました同行の皆様に感謝申し上げます。

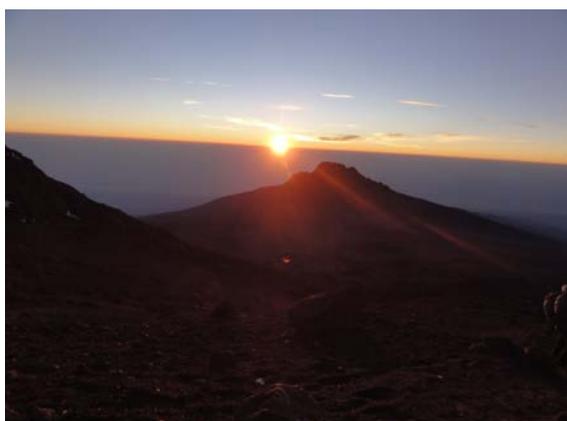
(2017/10/19/Thu.)



モシ・マウンテン出発風景



モシ：マウンテン前にて



キリマンジャロの日の出



シーラ1キャンプよりのキリマンジャロ

あまり知られていないと思いますが、千葉県連には海外委員会があるのです。県連創立50周年記念事業で、バリ島の3山登山が最初の取り組みです。

今後、会員の皆様の海外登山やトレッキングのお手伝いをしていきたいと思っています。海外登山活動や高度障害などの情報交換や学習会を計画して行きたいと思っています。海外の経験者、興味のある方の参加協力を待っています。

連絡先：安彦：mt25hm4abichan49@gmail.com 広木：danphiro@zpost.plala.or.jp

衆議院議長 殿
参議院議長 殿

リニア新幹線で南アルプスの自然を壊さないでください

南アルプスは、日本を代表する優れた自然の風景地として国立公園に指定され、「ユネスコエコパーク＝生物圏保存地域」に国内で6番目に登録されています。JR東海は自然豊かな山岳地帯を、トンネルで貫通させるリニア新幹線の建設を推し進めています。

リニア新幹線計画は、山梨県、長野県、静岡県にまたがる南アルプスの山岳地帯で中央構造線をはじめ、無数の活断層の中を横切ります。ここは、年間4センチもの隆起を続けていて、稜線から1400メートルの下にトンネルを貫通させることは、安全対策上の面からも専門家から危惧する声があげられています。

南アルプスは、貴重な山岳自然の宝庫ともいえる場所であり、日本の国土の生物多様性を支える、いわば屋台骨としての役割を果たしている大井川源流の山岳地帯です。この地域がトンネル掘削工事に伴う河川への減水（大井川水系では毎秒2トン）、トンネル掘削によって排出される残土処理、10数年以上にも及ぶ工事の騒音、工事のための作業員700名が常駐する宿舎が建てられる問題等、工事に伴う南アルプスの自然環境への影響は計り知れないものがあります。

リニア新幹線計画は、日本のなかでも貴重で豊かな山岳自然を破壊する行為につながると同時に、日本のエネルギー政策の将来にも大きな禍根を残すことにもなり、国民的な議論が必要なものです。

日本勤労者山岳連盟は、山岳自然との共生を求めていくために独自に「労山自然保護憲章」を制定し、「山岳での開発動向に関心を持ち、利便性にかたよることなく、事実にもとづいた判断で自然がそこなわれないよう努める」ことを掲げ活動しています。その理念や観点に基づき下記の事項について要請します。

記

1、南アルプスの自然環境保全と沿線住民の生活環境の保全などの立場から、リニア新幹線計画の凍結、見直しを求めます。

2、リニア新幹線計画は、日本のエネルギー政策の将来にも大きな禍根を残すことから、凍結・見直しを求めます。

年 月

〈取扱い団体〉 日本勤労者山岳連盟
〒162-0814 東京都新宿区新小川町5-24
電話 03-3260-6331 FAX 03-3235-4324
E-mail jwaf@jwaf.jp

署名用紙は、各会代表者・県連理事にメール添付で送ります。

県連たより

千葉県勤労者山岳連盟（千葉労山）

- ◎ 県連盟事務所
〒262-0033
千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18
レジデンス幕張台 101 号室
TEL・FAX： 043-306-1190
Eメール：rousanchiba@grape.plala.or.jp
JR総武線幕張本郷下車、海側 徒歩5分
(県連事務所に常駐者はいません)
- ◎ 加盟会会員の事故一報送付先
教遭委員長・岡田 賢一
ken-ichi@f4.dion.ne.jp
Fax：043-271-4704
全国連盟事務局にも必ず送付の事。
- ◎ 連盟費振込み先
郵便振替口座 00160-3-481509
千葉県勤労者山岳連盟
- ◎ 「ちばニュース」原稿送付先
発行責任者：広木 国昭

NPO法人「ちば労山ゆう」

「ちば労山ゆう」は、定時総会で2017年度は、定期的な支援活動は実施しない事になりました。会で実施する、支援活動は引き続き支援して行きます。復興支援の気仙沼・石巻の海産物販売は継続して取り組んでいます。

出来る時に

出来る人が

出来る事を

- ◎「ちば労山ゆう」への問い合わせは千葉県連盟ホームページから「ちば労山ゆう」にお願いします
- ◎「食べて復興支援」支援物資の問合せは
広木 国昭
Eメールアドレス
danphiro@zpost.plala.or.jp

【編集後記】

- ・10月理事会報告に、県連役員選出について掲載しました。県連の現状を理解していただき問題解決にご協力をお願いします。
- ・女性と登山全国集会在、12月2日(土)・3日(日)に、埼玉県嵐山市で開催されます。参加者が少ないようです。千葉県連から大勢の参加をお願いします。近県での開催です、この機会に全国規模の集会を覗いては如何ですか。
- ・キリマンジャロ報告が、3件13ページになりました。で、総ページ数が26Pになりました。ガンバッテ読んでください。(いつもこれくらいのあると???)
- ◆ NPO法人「ちば労山ゆう」からの発信がなくなっています。心配して「どうしたの？」との声も来ています。今、チョット一休み中です。その中で、支援物資の販売活動は細々ではありますが継続しています。寒くなったので、ワカメや昆布類が入荷しています。貴重な活動資金であると同時に、被災地と「千葉県連・ちば労山ゆう」をつなぐ支援活動です。会行事や近隣の公民館行事などでの取り組みを検討して下さい。数の大小に関係なく相談・連絡をお待ちしています。連絡は、広木までお願いします。

県連活動予定表

11月		行事予定	12		行事予定
1	水		1	金	
2	木		2	土	女性全国集会(埼玉)
3	金		3	日	//
4	土		4	月	
5	日		5	火	県連役員会(県連事務所)
6	月	女性委員会(県連事務所)	6	水	
7	火	県連役員会(県連事務所)	7	木	
8	水		8	金	
9	木		9	土	
10	金		10	日	
11	土	事故防止交流集会	11	月	
12	日	// (大山青年の家)	12	火	ハイキング委員会
13	月		13	水	
14	火		14	木	県連理事会
15	水		15	金	
16	木		16	土	
17	金		17	日	
18	土		18	月	
19	日	ワンコイン講習会(西部公民館)	19	火	
20	月		20	水	
21	火		21	木	
22	水		22	金	
23	木		23	土	
24	金		24	日	
25	土		25	月	
26	日		26	火	
27	月		27	水	
28	火	組織委員会(県連事務所)	28	木	
29	水		29	金	
30	木		30	土	
			31	日	

発行者 : 千葉県勤労者山岳連盟
 〒261-0013 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18
 レジデンス幕張台 101号室
 TEL・FAX 043-306-1190 (常駐者はいません)
 発行責任者 : 広木 国昭(danphiro@zpost.plala.or.jp)
 問い合わせは:千葉県連ホームページ・事務局への問合せまで